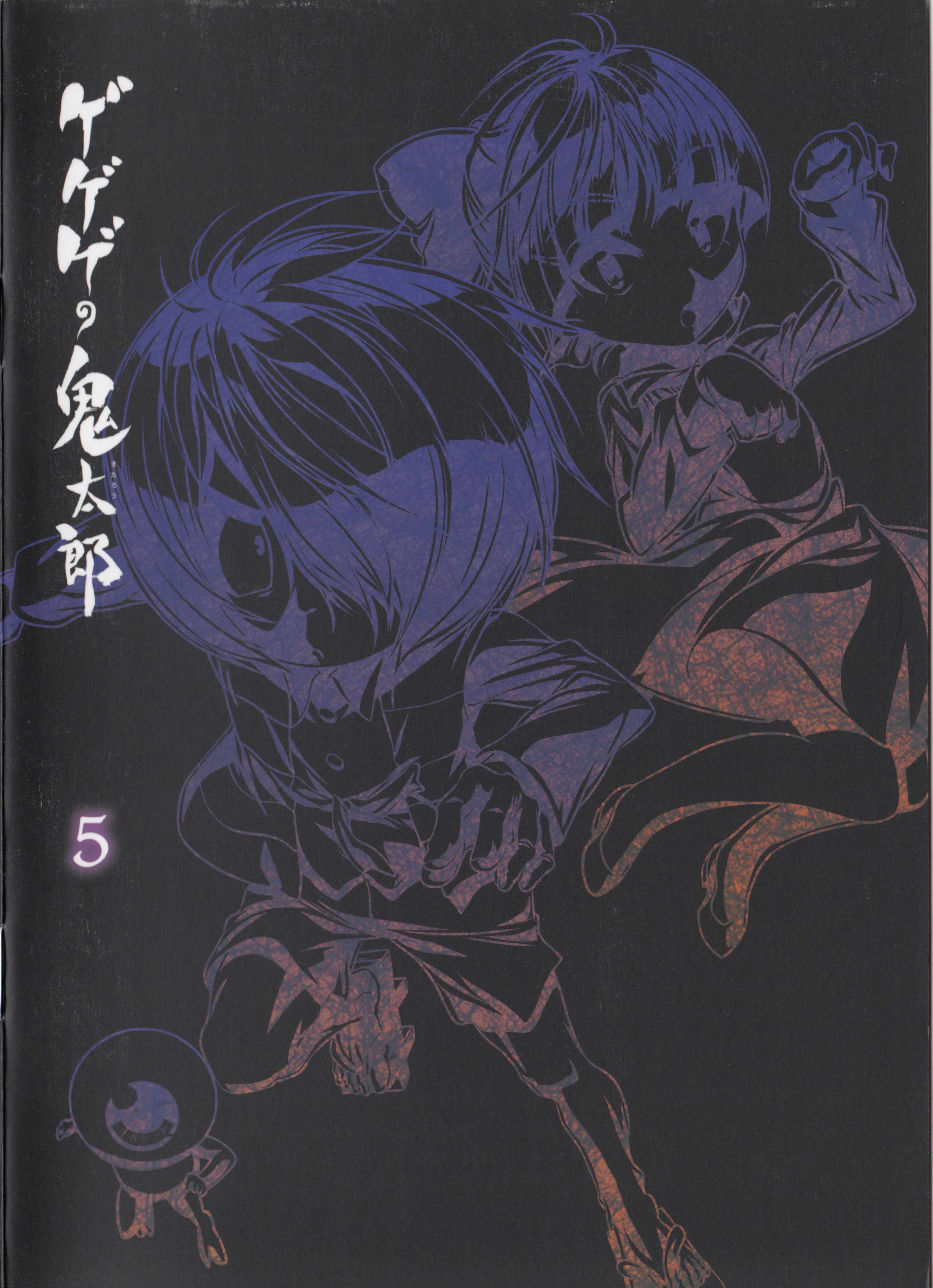
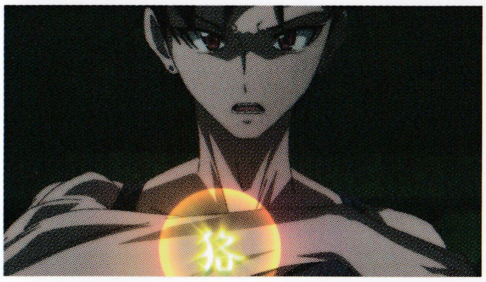

ゲゲゲの鬼太郎
5

DISC





第 50 話

地獄からの使者　鵺（ぬえ）

夜になると不気味な黒雲が湧き上がり、世にも恐ろしい鳴き声のようなものが聞こえるという町がある。それを聞いた者は病にかかり動けなくなってしまう。その町に住む少年・カンジから手紙を受け取った鬼太郎は町へ向かうのだが……。

演出：中村明博　絵コンテ：八島善孝　脚本：吉野弘幸
作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

第 51 話

閻魔大王の密約（えんまだいおうのみつやく）

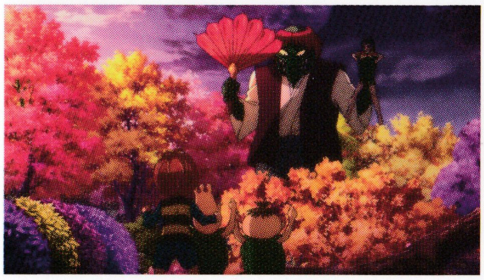




出現した鵺は、ムジナが化けた偽物だった。急ぎ戻る鬼太郎だが、鵺は不吉な鳴き声を東京に響かせる。そして、鬼太郎はねこ娘が蘇る代償として、閻魔大王と交わした密約を、砂かけばばあたちに明かす。その内容とは……。

演出：内山まな　絵コンテ：越智一裕、なかの★陽
脚本：吉野弘幸　作画監督：市川吉幸　美術：加藤 恵





第 52 話

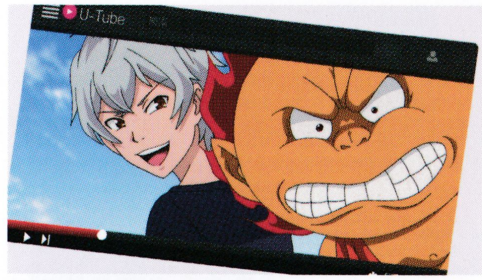
少女失踪（しょうじょしっそう）！木の子の森

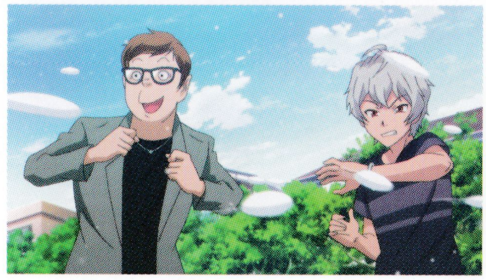
母親と揉めてしまったまなの友人みやびは、突然美しい森に迷い込んでしまう。そこには不思議な雰囲気の子供一森の精霊・木の子たちが住んでいた。彼らと遊ぶみやびだったが、徐々に自分だけが成長することに困惑する。果たして彼女は元の世界に戻るのか、森に残るのか……。

演出：岩井隆央　絵コンテ：なかの★陽　脚本：野村祐一
作画監督：大西陽一　美術：加藤 恵

第53話

自己愛暴発！ぬけ首危機一髪

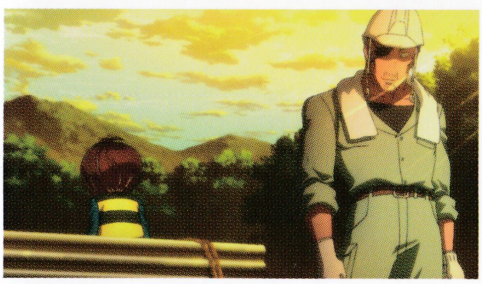




再び人気ウーチューバーに返り咲き、就職活動から逃れようとするチャラトミ。自分を有名だと信じて疑わない妖怪抜け首と組み動画配信を始めると、二人は人気者へ上り詰める。更なる人気を獲得しようと画策するチャラトミだったが……!?

演出：前島健一　脚本：井上亜樹子
作画監督：鈴木伸一　美術：加藤 恵





第54話

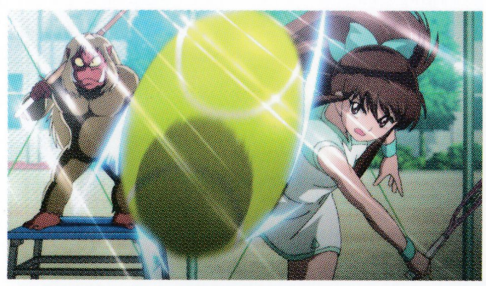
泥田坊と命と大地

建設現場に妖怪・泥田坊が出現し、作業員が次々と襲われる。実は30年前にも同様の事件が起きており、そのとき鬼太郎は苦悩の末に泥田坊を倒したのだった。警告の為に現場に赴いた鬼太郎は、社長である黒須と再会する。

演出：畑野森生　脚本：金月龍之介
作画監督：浅沼昭弘　美術：加藤 恵

第55話

狒々のハラスメント地獄



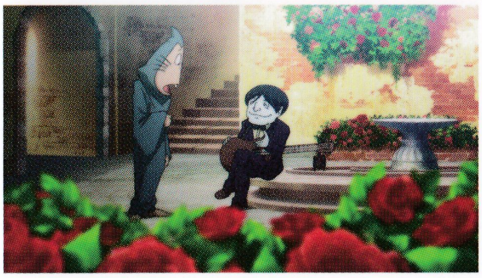


テニスの魅力に憑りつかれている妖怪・狒々。オリンピックで金メダルをとれる選手の育成を決意した狒々は、まなの友人でもあるユミと出会った。意気投合した二人は、早速毎日猛特訓に励むが、次第にその関係に亀裂が生じ始める。

演出：やしろ 駿　脚本：市川十億衛門
作画監督：真波三郎　美術：加藤 恵

DISC





第 56 話

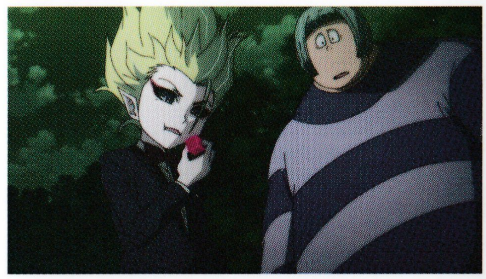
魅惑の旋律 吸血鬼エリート

ねずみ男は吸血鬼エリートから、手を組まないかと持ちかけられる。彼は、将来国の中枢を担う少年たちを利用して世界を裏で操ってきた妖怪であり、鬼太郎すら部下にしようと画策していた。法外な謝礼に目が眩み、ねずみ男は助力を快諾するが……？

演出：古賀 豪　脚本：長谷川圭一
作画監督：袴田裕二　美術：加藤 恵

第 57 話

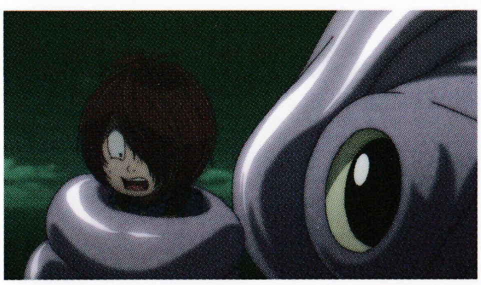
鮮血の貴公子 ラ・セーヌ





若い女性ばかりが全身の血を抜かれる事件が頻発する中、西洋妖怪の魔女アニエスからバックベアードに復活の兆しがあることを知らされる鬼太郎たち。さらに吸血鬼エリートよりも強大な吸血鬼ラ・セーヌが日本に来ている可能性も示唆されて……。

演出：角銅博之　脚本：大野木 寛
作画監督：小泉 昇　美術：加藤 恵





第 58 話

半魚人のかまぼこ奇談

船の遭難事故を調べるために、港町を訪れる鬼太郎だったが、ねずみ男の裏切りにより、ダイオウイカに捕まってしまう。鬼太郎は必死の抵抗を試みるが半魚人の深海妖術によって姿を変えられてしまい……!?

演出：門 由利子　脚本：金月龍之介
作画監督：清山 滋崇、信実節子　美術：加藤 恵

第 59 話　女妖怪・後神との約束



恋人が失踪した―とある青年からの依頼を受けて失踪事件を調べる鬼太郎とねこ娘。失踪事件の奇妙な法則を見つけ出したまなはその夜、友達のみやびから「助けて」のメッセージを受け取った。恐る恐るみやびの家の中に足を踏み入れると……！

演出：内山まな　絵コンテ：なかの★陽　脚本：長谷川圭一
作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

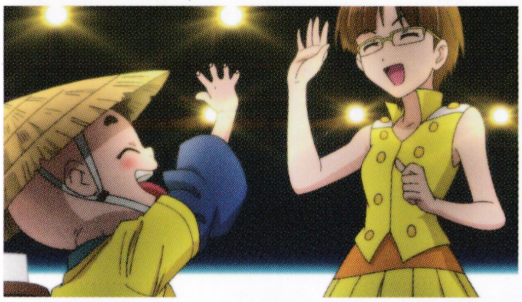
第 60 話　漆黒の冷気　妖怪ぶるぶる

蒼馬、大翔、裕太、そして父親の祐一と一緒にキャンプにやって来たまな。しかしその夜、祐一らが忽然と姿を消した。まなと裕太は妖怪の仕業ではないかと疑い、すぐに鬼太郎に知らせようとするが……!?



演出：竹下健一　脚本：伊達さん
作画監督：藤原未来夫　美術：加藤 恵

第 61 話　豆腐小僧のカビパンデミック

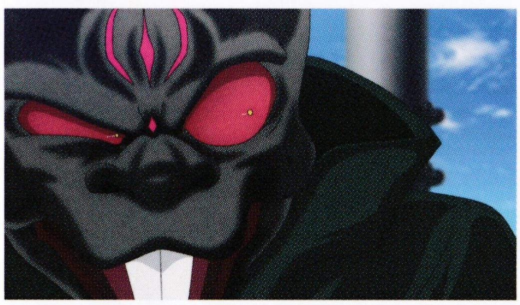


アイドルグループ電池組のニッケルカナは、ある夜に豆腐小僧と出会う。豆腐を運ぶことが自分の役割だと言う豆腐小僧を見て、カナは自分の役割とは何かを考え始める。豆腐小僧はそれを一緒に探すため、彼女のマネージャーになるが……!?

演出：中村明博　脚本：市川十億衛門
作画監督：大西陽一、藤原未来夫　美術：加藤 恵

第 62 話　地獄の四将　黒坊主の罠

街では水が汚染されており、人々が飲料水を求めて奔走していた。鬼太郎は、一連の汚染騒動の黒幕は大逆の四将の黒坊主ではないかと推測する。その頃、鬼道衆の生き残りである石動零もまた動き出していて……!?



演出：牧野次郎　脚本：吉野弘幸
作画監督：市川吉幸　美術：加藤 恵

ゲゲゲのお喋り 5



ねずみ男役
古川登志夫

×



一反もめん役
山口勝平

ゲゲゲのお喋り第5回目は、ねずみ男役の古川登志夫さんと、一反もめん役の山口勝平さん。数々の作品で共演されてきたお2人に、初めて会ったときのエピソードや名台詞「コットン承知」の誕生秘話まで、先輩後輩の垣根を越えて仲良く語っていただきました。

念願の『ゲゲゲの鬼太郎』レギュラー！

――本作でキャストにご決定されたときのお話をお聞かせください。

古川登志夫（以下、古）：ねずみ男は以前から演じてみたかった役なので、決まったときはうれしかったですね。実は他のシーズンでねずみ男役のオーディションを受けて、落ちたことがあるんですよ（笑）。だから今回は喜びもひとしおでした。自分の守備範囲のレンジを広げてくれる役だと思うので、日々、挑戦をしています。

山口勝平（以下、山）：僕は野沢雅子さんが鬼太郎役を演じていた第１・２期『ゲゲゲの鬼太郎』を観ていた世代なので、小さい頃から慣れ親しんだ作品に出られることが夢のようでしたね。役者の勉強をしている頃に鬼太郎の着ぐるみを着るバイトもしていたので、『ゲゲゲの鬼太郎』には特に思い入れがありました。第４期はのっぺらぼうの役、第５期はいそがしの役で出て、第６期でレギュラーの一反もめんにステップアップできました（笑）。野沢雅子さんに憧れて、男・野沢雅子になりたくて声優になったので、毎週同じスタジオで一緒に仕事ができるのが本当にうれしいです。



人気作品のイベントで初共演！

――お２人が初めて共演されたのはいつ頃でしょうか？

古：確か武道館でやった、アニメ『うる星やつら』のイベントだったかな（古川さんはアニメ『うる星やつら』の諸星あたる役を担当）。

山：『うる星やつら』の10周年イベントの時ですね。僕はMCとして参加させていただきました（山口さんは『うる星やつら』と同じく高橋留美子先生原作のアニメ『らんま1/2』の早乙女乱馬役を担当していた縁で出演）。

古：勝平ちゃんが丁寧に楽屋まで挨拶に来てくれたんです。「古川さんと衣装がかぶっちゃって、申し訳ありません」って、衣装にも気を遣ってくれて。若いのにきちんとした方だなと思いました。

山：ちょうど声優としてデビューしたばかりの頃で、武道館に出演するのも司会をやるのも初めてで、もう緊張しっぱなしでした。でも古川さんが先輩後輩関係なく優しく接してくださったので、すごくやりやすかったです。

古：その後はもう、色んな作品で共演したね。

山：そうですね。いつもとてもお世話になっています！

偉大なる先代の背中を追い続けて

——ご自身の役柄を演じられるときに、意識されていることはありますか？

山：一反もめん役というと八奈見さん(第３・５期一反もめん役の八奈見乗児さん)のイメージが強かったので、オーディションのときにどうやって演じようかすごく悩みました。その頃ちょうど落語の勉強をしていて、古典落語に出てくる権助というキャラクターみたいに演じてみたんです。それがハマってくれたので、落語をやっていてよかったと思いました。

古：一反もめんの、力が抜けた感じの演技がいいよね。新境地を切り開いたと思うよ。

山：ありがとうございます。今までやったことのないような役なので、やっていてすごく楽しいです。

古：色々と挑戦をされている感じがしますね。

山：そうなんですよ。自分で台本を博多弁に直したりもしているんですけど、いざ収録になったら字が汚くて読めなかったりして(笑)。ときどきかんじゃったりスベったりしているんですけど、博多弁だから誰にも気づかれないんです(笑)。

古：勝平ちゃんが、自分の楽な言葉で喋っているのがいいんだよね。かっこいい役で声を張っているときもいいけど、一反もめんみたいにひらひらしている感じもいい。勝平ちゃんの一番いいところがあの役に出ていると思うよ。

山：古川さんに褒めていただけるなんて、うれしいです。

古：僕はねずみ男というと富山さん(第３期ねずみ男役の富山敬さん)のイメージが強くてね。富山さんみたいな軽妙な芝居はどうやったらできるんだろうと思って、一生懸命、後を追い続けています。どうすればあんなにリズミカルにセリフを喋れるんだろう。なんとか自分で体得したいですね。ふわっと優しくて柔らかいところが出せるといいなと思うんだけど、なかなか難しい。

山：でも古川さんは本当に演技の幅がすごいと思います。極端に声を変えることなく、かっこいい役でもねずみ男でも色んな役を自在に演じ分けているじゃないですか。そこは富山さんと似てらっしゃるところだと思います。

古：やっぱり僕は、富山さんの影響を受けているんだよね。



「コットン承知」誕生秘話！

——他のキャストの方々から、山口さんのアドリブが面白いと伺っています。

山：一反もめんは口が無いので、アドリブを入れやすいんですよ(笑)。

古：僕もアドリブをやりたいけど、そんな余裕はないですね(笑)。

山：古川さんのねずみ男は、普通のセリフがアドリブに聞こえますからね(笑)。

古：一反もめんの「コットン承知」はいいよね。

山：これまで一反もめん役をやられていた八奈見さんが、「もめんじゃないよ◯◯だよ」みたいなアドリブを入れていたんです。それを観て、もめん系のキメゼリフみたいなものが欲しいなと思っていたところに、ちょうど「合点承知」というセリフが出てきたので、「コットン承知」に変えてみたんですよ。そうしたら、その後の台本に採用されて、ついにLINEスタンプにもなってしまって……ちょっとうれしかったです(笑)。

古：新しい言葉を作り出しちゃうなんて、すごいよね。福岡出身だから、博多弁も得意でしょ。

山：そうですね。方言に直しすぎると全国区で嫌がられてしまうこともあるんですが、永富さん(プロデューサー)が福岡出身ということもあって、「どんどん直しちゃっていいですよ」とおっしゃってくれたんです。だから純粋に博多弁で喋っていますね。福岡にいる母がすごく喜んでくれています(笑)。

攻めの第６期『ゲゲゲの鬼太郎』！

――それでは、第６期の『ゲゲゲの鬼太郎』の印象をお聞かせください。

山：いい意味で第６期の鬼太郎は現代っ子というかマイペースというか、あまり他人に干渉しない部分があって、独特な鬼太郎ですよね。

古：今までの鬼太郎とは、ちょっと違った感じですね。第６期はコンセプト自体も面白いじゃないですか。キャラクターの設定もそれぞれが独特のものがある。

山：そうですよね。ねこ娘のキャラクターデザインを見たときは、びっくりしました。

古：ねこ娘には驚いたね。

山：現代っぽさを感じました。

古：シナリオ自体も現代的なものをどんどん取り入れているから、リアリティがある。

山：そうですね。現代的でありながらも、幽霊電車とか原作の怖い部分を入れ込んでいるのがすばらしいと思います。

古：原作の世界観を守りつつ、新しいものを生み出しているんだよね。役者もそうだしスタッフもそうだけど、攻めの第６期という気がします。役者のみなさんもそれぞれ自分の持ち味を出している所がいい。いい意味で癖のある声優が揃っているからね（笑）。

山：そうですね。みんなで主張し合いながらも、ちゃんとひとつになっている。ほとんどが先輩ですけれども、長くご一緒させていただいている方ばかりなので、阿吽（あうん）の呼吸でできるのが気持ちいいです。

古：そうだね。キャリアのある方たちはそれぞれのキャラクターを活かして、ちゃんと引くところは引いて出すところは出している。阿吽の呼吸ができているから、打ち合わせをしなくても上手くできるんだよね。

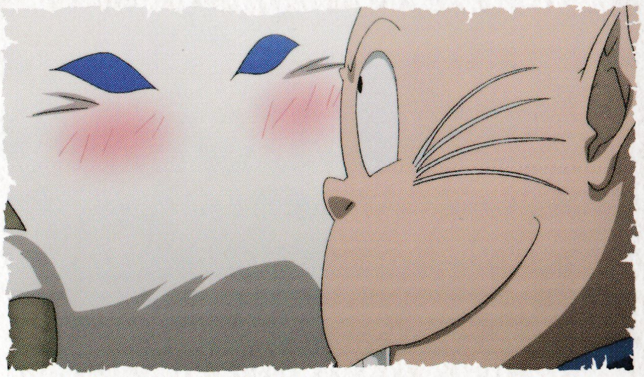
山：そんな大御所ばかりの中、沢城さん（鬼太郎役の沢城みゆきさん）の感性も素晴らしい。

古：独特な鬼太郎を創り上げたと思いますね。

第６期の『ゲゲゲの鬼太郎』は新鮮！

――第６期の『ゲゲゲの鬼太郎』の中で、印象的だったお話はありますか？

山：第６話「厄運のすねこすり」や第7話「幽霊電車」みたいな、観終わった後になんとも言えない気持ちになるような話が印象的でしたね。第10話「消滅！学校の七不思議」は現代っぽい話だなと思いました。



古：僕は第24話「ねずみ男失踪!?石妖の罠」かな。

山：ねずみ男が結婚詐欺にあう話ですね。あれはねずみ男に同情しましたよ（笑）。

古：あとは第９話「河童の働き方改革」とか、現代的なアレンジをした話が面白い！

山：河童が砂かけばばあに「お世話になっているから、あんたの尻子玉だけは抜けない」って言っていたんだけど、それはお世話になっているからなのか、ばばあの尻子玉だから抜けないのか（笑）。

古：抜けないというか、抜きたくない（笑）。

山：あの話は、いそがしもでていましたね。第５期でいそがし役をやっていたので、懐かしかったです。

古：あとは個人的には第46話「呪いのひな祭り 麻桶毛（まゆげ）」。妻（お雛役の柿沼紫乃さん）が出ていたので、気になりました。心配でドキドキして、自分がとちっちゃったりしました（笑）。

山：西洋妖怪編も見応えがありましたね。元々原作にあった西洋妖怪編を新しい要素を入れてアニメに持ってきたのは、新たな試みだと思いました。

古：秀幸さん（バックベアード役の田中秀幸さん）の演技も良かったね。

山：『ONE PIECE』のドフラミンゴ役の時みたいに、悪い秀幸さんでしたね（笑）。

古：あと今期は鬼太郎たちの距離感が良く描かれているよね。

山：第56話「魅惑の旋律 吸血鬼エリート」のラストで日常に戻ったときの、鬼太郎とねずみ男のやり取りが好きですね。「ラーメンでも食いに行くか」「お前がおごってくれるんだろうな」みたいな。

古：ねずみ男が鬼太郎を諫めるようなシーンもあって、今期のねずみ男は人間的だなと思います。
山：ねずみ男は半分人間で半分妖怪という悩みを抱えていますよね。
古：半妖を背負っている話が多いよね。
山：ちょっとかわいそうですよね、僕もある作品で半妖を演じたことがあるので(笑)、その苦しみはわかります。

妖怪ポストに切実なお願い！

——もし妖怪ポストがあったらどんなことをお願いしたいですかね。
山：毎週出してください(笑)。第６期の鬼太郎はアクティブなので、あまり一反もめんに乗ってくれないんです。できれば毎週、乗ってもらえるとうれしいですね。
古：レギュラーメンバーでも意外と出てこないんだよね。
山：１か月出てこないこともあるので、レギュラーでも安心はできないんですよ(笑)。
古：僕は「富山さんのねずみ男に近づけますように」ですね。もう鬼太郎の力を借りるしかない(笑)。

BOX5を購入してくれたみなさんに！

山：ご購入いただいて、本当にありがとうございます。応援してくださるみなさんのおかげで、『ゲゲゲの鬼太郎』の第６期は放送２年目を迎えることができました。これからも楽しい作品を届けたいと思いますので、ぜひ応援をよろしくお願いいたします。
古：世界に冠たる水木しげるワールドであり、『ゲゲゲの鬼太郎』ですので、これからもみなさんに愛していただきたいです。
山：今度、みんなで水木しげるさんの故郷、境港に行きたいですね。
古：いいですね。
山：ぜひ行きましょう！　妖怪ポストに「境港に連れて行ってください」って入れておきます(笑)。





古川登志夫

栃木県出身。青二プロダクション所属。
代表作は『ドラゴンボール』シリーズ ピッコロ役、『うる星やつら』諸星あたる役、『ONE PIECE』エース役、『Dr.スランプ アラレちゃん』空豆タロウ役、『悪魔くん』メフィスト2世役、『The♥かぼちゃワイン』青葉春助役など。



山口勝平

福岡県出身。有限会社悟空所属。
代表作は『犬夜叉』犬夜叉役、『らんま1/2』早乙女乱馬役、『名探偵コナン』工藤新一／怪盗キッド役、『ONE PIECE』ウソップ役、『アイシールド21』雷門太郎役、『DEATH NOTE』L/竜崎役など。映画『魔女の宅急便』トンボ役、『金田一少年の事件簿』金田一一役、『アルスラーン戦記』アルスラーン役など。

永富×小川の ゲゲゲの部屋



プロデューサー永富と、シリーズディレクター小川がスタッフを招いて語る、連載コーナー早くも5回目。今回は美術を担当する株式会社美峰の野村正信さん、美術設定の天田俊貴さん、美術監督の加藤恵さんに登場いただき、美術のお仕事や見どころについて語っていただきました。


プロデューサー
永富大地
×

シリーズディレクター
小川孝治
×
美術
野村正信/天田俊貴/加藤恵

美術のお仕事とは？

――まずは美術設定と美術監督のお仕事について教えてください。

天田俊貴（以下、天）：美術設定は、簡単に言うと背景の設計図のようなものを作る仕事です。アニメでは現実の背景をそのまま使うわけにはいかないので、アニメ用にデフォルメした背景を作るんです。小川監督から「こういう場所でこんな芝居をさせたい」という発注をいただいて、そのイメージをもとにその場所の美術設定を考えます。

加藤恵（以下、加）：美術監督は、美術設定の方が描いた線画を元に、美術ボードというカラーの背景を描きます。私は主に第27話「襲来！バックベアード軍団」の古城外観や、第30話「吸血鬼のハロウィンパーティー」の映画館内部などの美術ボードを描きました。

野村正信（以下、野）：僕は美峰の窓口を担当しています。『ゲゲゲの鬼太郎』の美術に関しては、立ち上げから全体を通して携わっています。

「ゲゲゲの森」のモデルとなった屋久島

――美術のみなさんと屋久島にロケハンに行かれたそうですね。

永富大地（以下永）：『ゲゲゲの鬼太郎』第６期では、水木しげる先生の漫画のイメージにチャレンジしたかったんです。水木先生の漫画はキャラクターはシンプルなのに、背景が非常に細かくて写実的。写真に撮った風景をベースに描かれていたり、点の集まりで絵を描く「点描」の技法も使われていたりして、背景がものすごく印象的です。『ゲゲゲの鬼太郎』にとって背景の美しさが大事なコンセプトなんだという想いは立ち上げのときからありました。特に「ゲゲゲの森」は日常の向こう側にある神秘の世界だけど、ファンタジーすぎる森ではない。日常と続いていながらも妖怪がいそうな森をイメージしたときに、思い浮かんだのが屋久島でした。イメージを形にするために、僕と小川監督と、野村さんと天田さんとキャラデザの清水さん、製作担当の大町の６人で屋久島に行ったんです。

野：屋久島では、晴れているところに急に雨が降ったり、一瞬の間に雨雲が引いていったり、本当に妖怪がいるような雰囲気を体感できましたね。夢中になって写真をたくさん撮ってきました。縄文杉にたどり着くまでの登山が大変で、かなり





〈ロケハン時撮影写真〉





〈調布市作成『ゲゲゲの鬼太郎』聖地巡礼マップ〉

疲れましたけど（笑）。

天：屋久島に行く前と行った後では、木の描き方が変わったと自分でも感じています。苦労して見た風景は記憶に鮮烈に残っているんですよね。屋久島はすごく鮮やかな世界だったんですけど、僕が担当している美術設定ではそれをいかに線で見せるかが大事なんです。皮が剥がれた木や縄文杉の細かい幹のシワとか、細かいディテールをなんとか自分の絵に活かせないかと思いながら、屋久島では必死に歩きました（笑）。

小川孝治（以下、小）：けっこう歩いたよね。片道10kmくらい？

永：そうですね。小川監督は登山が趣味だから余裕でしたけど、他のメンバーは普段から運動をしていないメンバーで……野村さんなんて立派な一眼レフに望遠レンズまで持ってきていたから、すごく重たくて途中でバテちゃって。小川監督が代わりに一眼レフを背負って歩いていましたから（笑）。

小：登山はきつかったかもしれないですが、屋久島に行った成果は確実に作品に表れていますね。最初に作った美術設定では森の木もシュッとまっすぐに伸びていたんですが、屋久島に行った後に見ると人工林に見えてしまって（笑）。なのでもっとひん曲がっていたりワイルドな感じに修正してもらいました。

永：屋久島の匂いが残っているなと感じましたね。鬼太郎の家と木が一体化しているのは、第6期が初めてです。あとは「ゲゲゲの森」を俯瞰で見たときに見える大きな木は、明らかに縄文杉の影響ですね。

調布は『ゲゲゲの鬼太郎』フィーバー！

永：監督と相談をして、人間の世界は調布の街をベースにしました。

小：調布は自然と調和した、いい雰囲気の街だなと思います。自分で散策をして、写真もたくさん撮りましたね。

加：実際にある場所をアレンジしたところも多いので、注目して観てほしいですね。

永：調布市の方がすごく喜んでくれているんですよ。『ゲゲゲの鬼太郎』に登場した場所を掲載したガイドマップも作っていただいて。調布は、水木先生の第二の故郷でもあるので、うれしいですね。

加：実際に、調布で撮った写真をもとに描いています。

まなちゃんの部屋誕生秘話！

——天田さんのお気に入りの美術設定を教えてください。

天：お気に入りの設定はまなちゃんの部屋ですね。住んでいるキャラクターの趣味嗜好を部屋に反映させたかったので、まなちゃんの好みを監督に確認して、大仏が好きなので大仏のぬいぐるみを置いたり、ベッドには怖くならない程度にキモかわいいぬいぐるみを置いたりして、あのような変な部屋になりました(笑)。

小：不思議なデザインで見たときにニヤリとしましたよ(笑)。

天：ダメかと思ったら、そのまま使っていただけたので、うれしかったです。

小：キャラクターの部屋などの美術を作るときには、趣味嗜好を設定していかないと、どんどん平均化してしまって、作品としても個性がなくなってしまいますからね。キャラクターを動かす上でも経済状況や趣味嗜好を設定しないと動いてこないんです。

永：設定で描き込まれすぎると、それを仕上げる美術さんが大変ですけどね。

加：そうですね(笑)。



〈まなの部屋〉

作品の風格を決める美術の凄さ！

——では、美術で一番苦労されたところを教えてください。

天：妖怪の住処とか、妖怪がらみの設定はかなり苦労しましたね。人間の家や駅とかは調べれば参考にするものが出てくるんですけど、妖怪に関連する場所は水木先生の漫画からイメージするしかないんです。例えば第14話「まくら返しと幻の夢」に出てくる、夢の世界に行く虹の橋がかなり苦労しました。

〈バックベアードの古城外観(昼)〉



加：実際にある人間界の場所だったら、それほど苦労はしないんですけどね。第52話「少女失踪！木の子の森」に出てくる「木の子の森」は、リテイクがあって何度か美術ボードを描き直しました。「ゲゲゲの森」とも人間界とも違う世界にしたくて、何度か色を変えたりしましたね。

永：「木の子の森」は、めちゃくちゃカラフルで綺麗でしたよ。

加：ありがとうございます。

——みなさんが注目してほしい、美術の見どころを教えてください。

永：僕は第4話「不思議の森の禁忌」ですね。この話で描かれた「ゲゲゲの森」を見た時に、美峰さんと一緒に仕事ができてよかったなと思いました。「ゲゲゲの森」の描写がどのくらい神秘的になるかが重要だと思っていたので。このまま森を見ていたいと思うくらい素晴らしかった。「ゲゲゲの森」の描写は本当に感謝しています。

加：ありがとうございます。やっぱり普通の森ではないので、色も普通の人間界の森とは変えてたりしています。

永：自分の目で現実の森を見た時の密度よりも、美峰さんが描いてくれる絵の密度のほうが濃いんですよ。絵の中にものすごい情報量が込められているんです。絵ってこんなに美しいんだということを美術から感じることができるというのは、うれしいですね。ねずみ男が出てきて台無しになることもあるんですけど(笑)。

小：僕は逢魔(おうま)が時(とき)に注目して観ていただきたいですね。昼と夜の間の妖怪が動き出す中間点みたい

なところなので、シナリオでもあえて「夕方」ではなく「逢魔が時」と表記しています。逢魔が時の“なにかが動き出す瞬間”の色味にこだわっています。あと個人的には、第18話「かわうそのウソ」に出てくる田舎が好きですね。爽やかな自然がいいです。第14話「まくら返しと幻の夢」に登場するアキノリの夢の世界も、牧歌的で童心に帰ってしまいますね。

永：よくアニメにおいて「美術は作品の風格を決める」というじゃないですか。『ゲゲゲの鬼太郎』において、美術はキャラクターと同じくらい重要だと考えています。水木先生の漫画の中でも、美術はとても印象的に描かれていますしね。それを美峰さんのパフォーマンスで表現していただいて、作品の風格を高めているのが第6期のすごく大きな要素だなと思います。

小：『ゲゲゲの鬼太郎』で重要な「恐怖」というものは、キャラクターだけでは表現できないんですよね。「妖怪がそこに存在する」という画面の存在感そのものがしっかりしていないと説得力がない。思わず恐怖を感じてしまうような暗闇がしっかり描かれているからこそ、『ゲゲゲの鬼太郎』の「恐怖の世界」が成り立つんです。美峰さんに素晴らしい『ゲゲゲの鬼太郎』の世界を描いていただいて、本当に感謝しています。

——では最後に、BOX5を買ってくれたみなさんにメッセージをお願いします。

天：妖怪が現れる瞬間や人が恐怖を感じる瞬間などに、ふと奥の方を見ると凄い世界が広がっています。暗がりの中にどこまでも世界が続いているように描いているので、そういうところも観ていただけるとさらに楽しめると思います。Blu-ray&DVDで何度も恐怖を味わっていただきたいです。モデルになった場所にも、ぜひ行っていただきたいですね。

加：夕方の綺麗さとか、逆に夜の怖さとか、演出によって作り変えているので、そういうところも見ていただけたらうれしいです。同じ夕方でも影側を暗くしたりして色を変えて怖さを強調したりしているので。そういうところにも注目していただきたいと思います。

野：屋久島もすごくいいところだったので、ぜひみなさんも行って見て、「ゲゲゲの森」を感じていただきたいですね。



〈ゲゲゲの森〉

美術ボード











キャラクター紹介

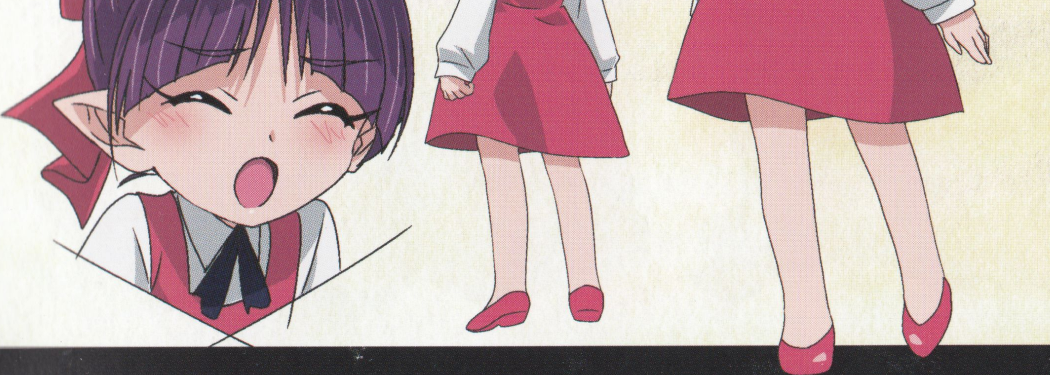
石動零（いするぎれい）

鬼太郎の前に突如現れた人間の高校生。その能力も目的も一切不明。妖怪に対して強い憎しみを持っているようだが……!?









こねこ娘

鬼太郎が閻魔大王（えんまだいおう）と「大逆の四将を捕らえ魂を回収すること」を約束することによって、地獄から連れて帰ってきたねこ娘の姿。本来の姿のときよりも素直になっている。

鵺（ぬえ）

猿の顔、狸の胴体、虎の手足、蛇の尻尾を持つ
妖怪で、大逆の四将の１人。鳴き声は恐ろしく、
その声を聞いた者は病にかかってしまう。

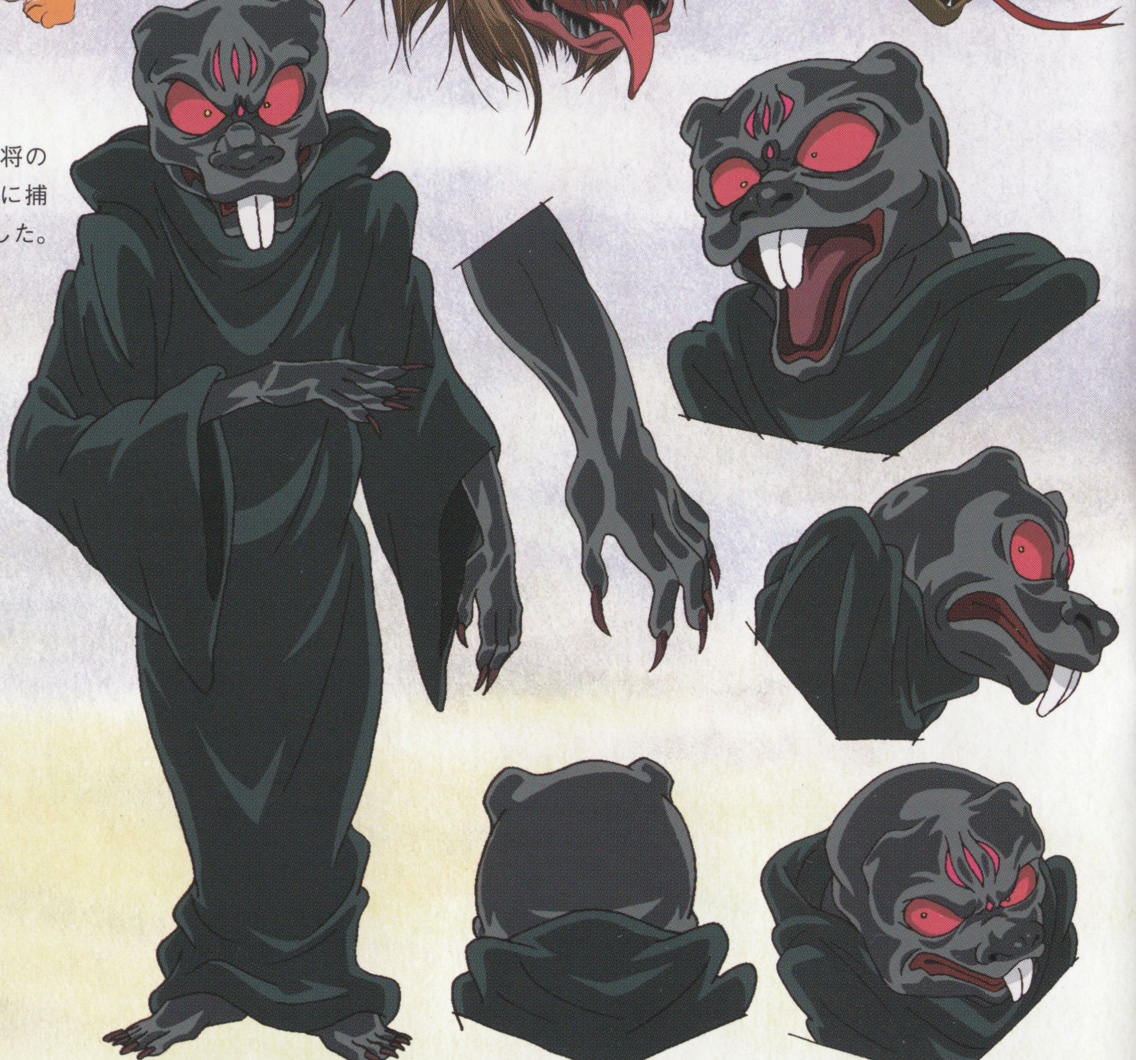




黒坊主（くろぼうず）

鬼太郎たちが追う、大逆の四将の
１人。水を汚す妖怪で、地獄に捕
らえられていたところを脱走した。





#51 閻魔大王

亡者に罪があるかどうかを見極め審判する地獄の大王。過去目玉おやじとは何かあったようだが……!?



#51 牛頭/馬頭

地獄を守護する、閻魔庁の門番。



#52 山天狗

木の子が困った時、頼りにしている妖怪。美しい女性を見ると……!?



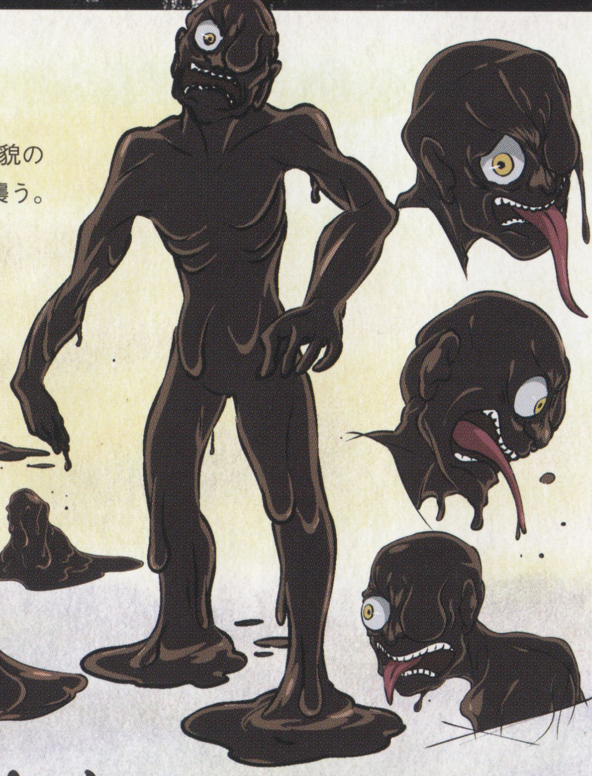
#53 抜け首

頭は強い熱気を放ち、体は冷気を放つ妖怪。二つがくっついている間は中和され、正常な温度を保つ。



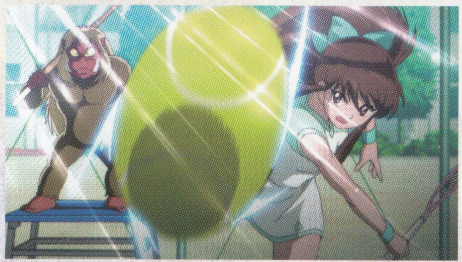
#54 泥田坊（どろたぼう）

田に住み着き、泥で覆われた風貌の妖怪。土地を荒らすものを恨み襲う。

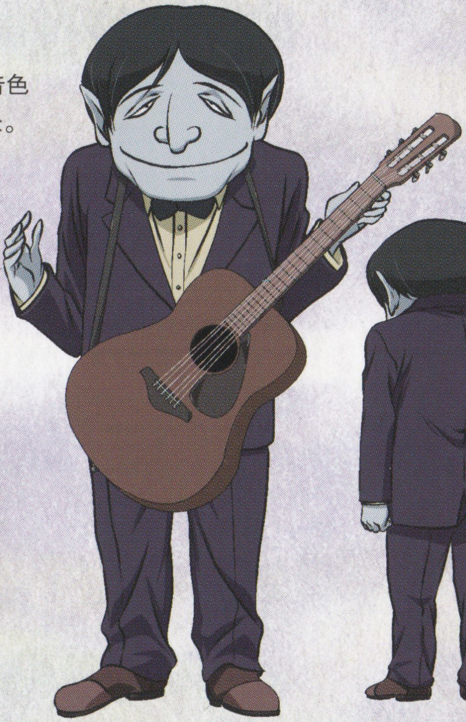
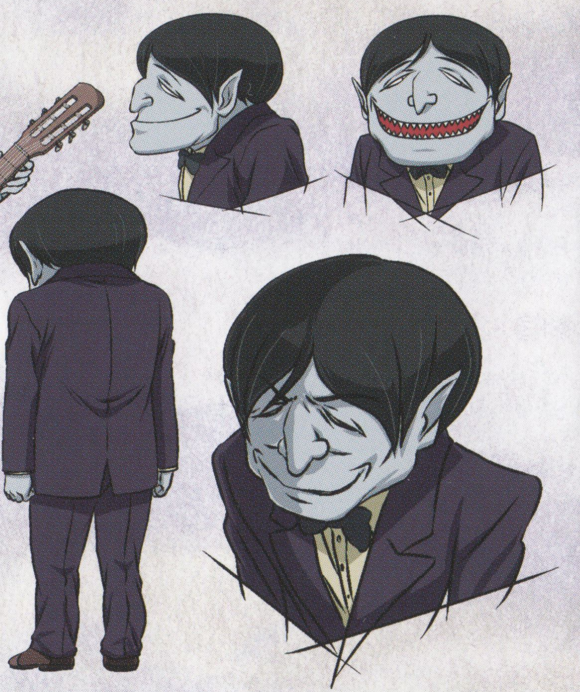
#55 狒々（ひひ）

昭和初期に人間にテニスを教わって以来その魅力に取り憑かれた妖怪。今ではコーチとなりテニスを教える立場となる。

#56 吸血鬼エリート

魅力的なギターの音楽を奏でる吸血鬼。その音色で人間を裏から自由自在に操り、支配してきた。

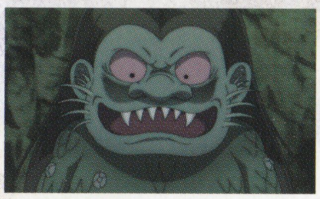
#57 吸血鬼ラ・セーヌ

若い女性の血を狙う、吸血妖怪の貴族。
バックベアード復活の為に生き血を集めている。



#58 半魚人

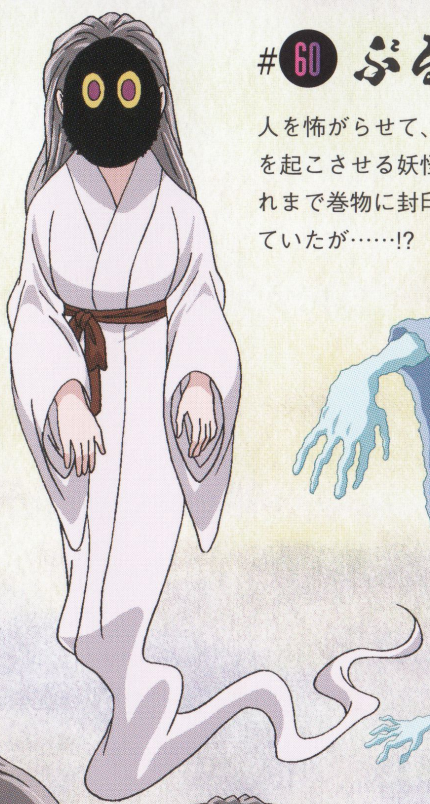
ねずみ男と組んで、かまぼこビジネスを行う妖怪。深海妖術を使い、鬼太郎さえ操ろうとする。

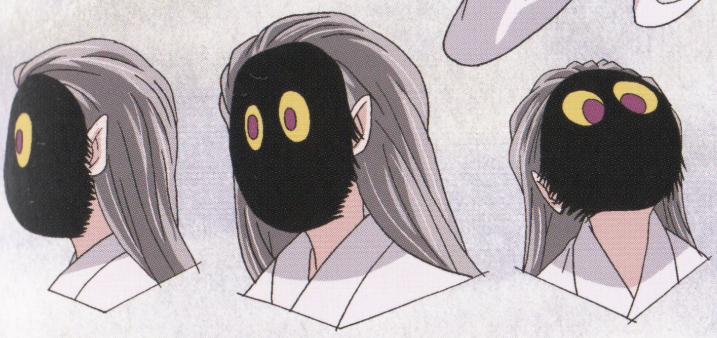



#59 後神（うしろがみ）

真っ黒な顔を持つ女妖怪。元々は気性の優しい性格だったようだが……!?

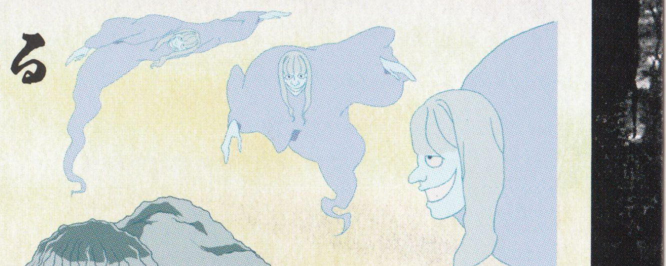






#60 ぶるぶる

人を怖がらせて、寒気を起こさせる妖怪。これまで巻物に封印されていたが……!?

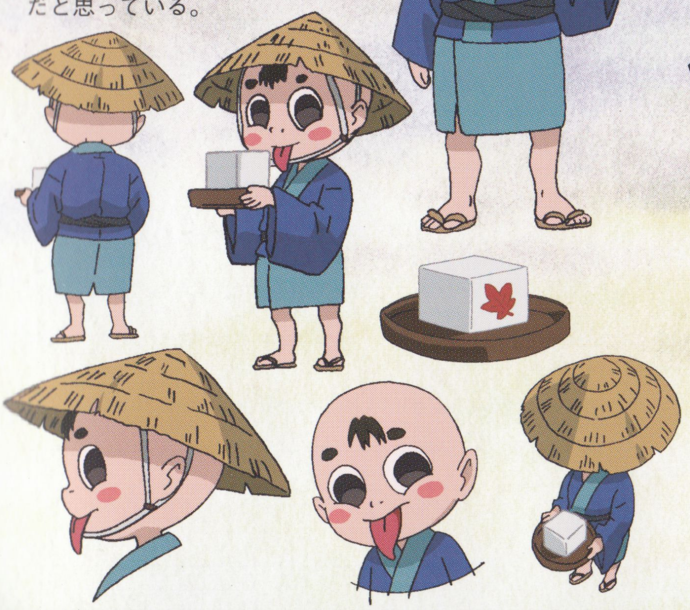




#61 豆腐小僧

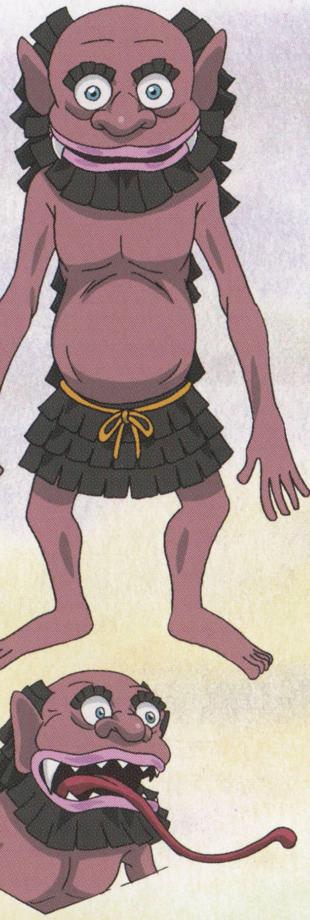
豆腐を持った小柄な妖怪で、妖怪アパートの住人。豆腐を運ぶことしかできないが、それを不満には思っていない。むしろ自分の役割だと思っている。





#61 天井なめ

天井をなめてカビを取る妖怪。大好物のカビがあるとどこからともなくやってくる。







BIXA-9065/BIBA-9075

デザイン：バナナグローブスタジオ